

2025年7月期 決算補足資料

2025年9月30日

 **株式会社 稲葉製作所**

証券コード：3421

(東証スタンダード市場)



2025年7月期の業績について

持続的成長・企業価値向上への取組について
～資本収益性改善に向けて～

製品・事例のご紹介

【ご参考】会社概要

業績サマリー

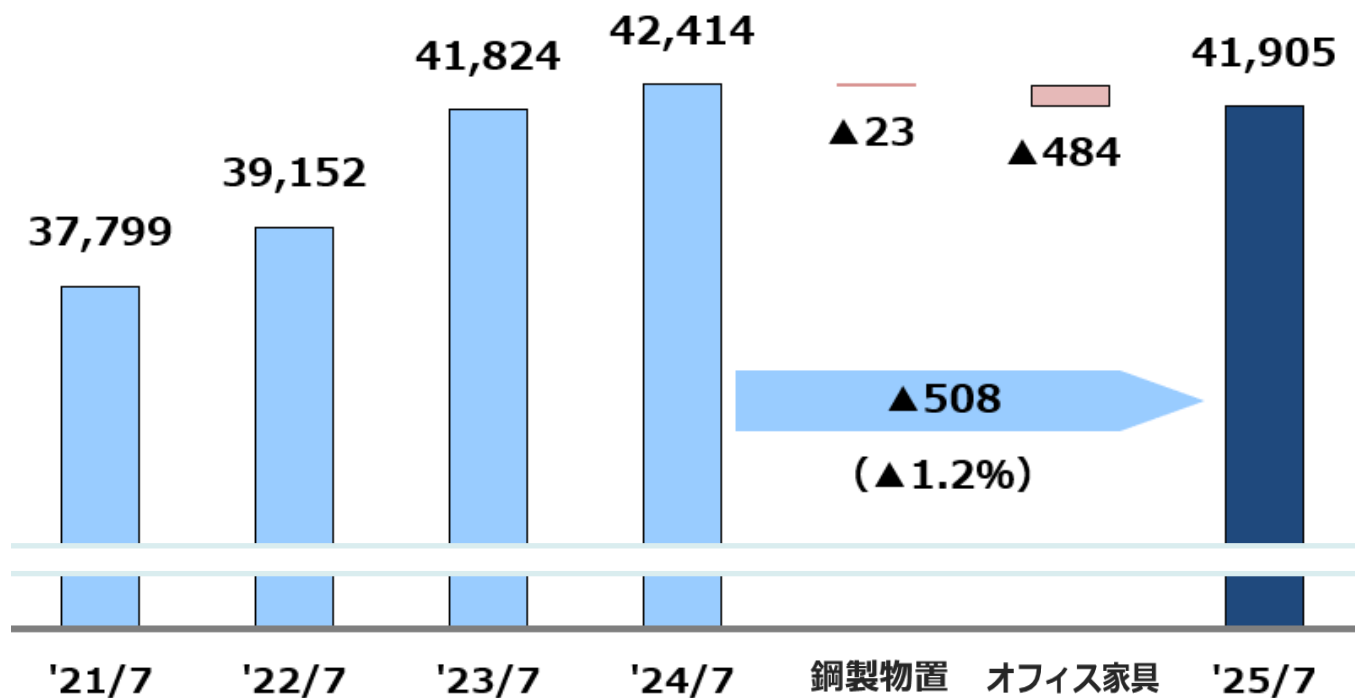
(単位:百万円)	2024/07期		2025/07期		
		対売上比		対売上比	前期比
売上高	42,414	100.0%	41,905	100.0%	▲1.2%
鋼製物置	29,241	68.9%	29,218	69.7%	▲0.1%
オフィス家具	13,172	31.1%	12,687	30.3%	▲3.7%
売上総利益	11,180	26.4%	10,037	24.0%	▲10.2%
償却前営業利益	4,885	11.5%	3,844	9.2%	▲21.3%
営業利益	3,064	7.2%	1,865	4.5%	▲39.1%
経常利益	3,402	8.0%	2,197	5.2%	▲35.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,441	5.8%	1,546	3.7%	▲36.7%

連結売上高

- ・ 鋼製物置・オフィス家具とも減収となり、連結売上高は1.2%の減収

連結売上高推移

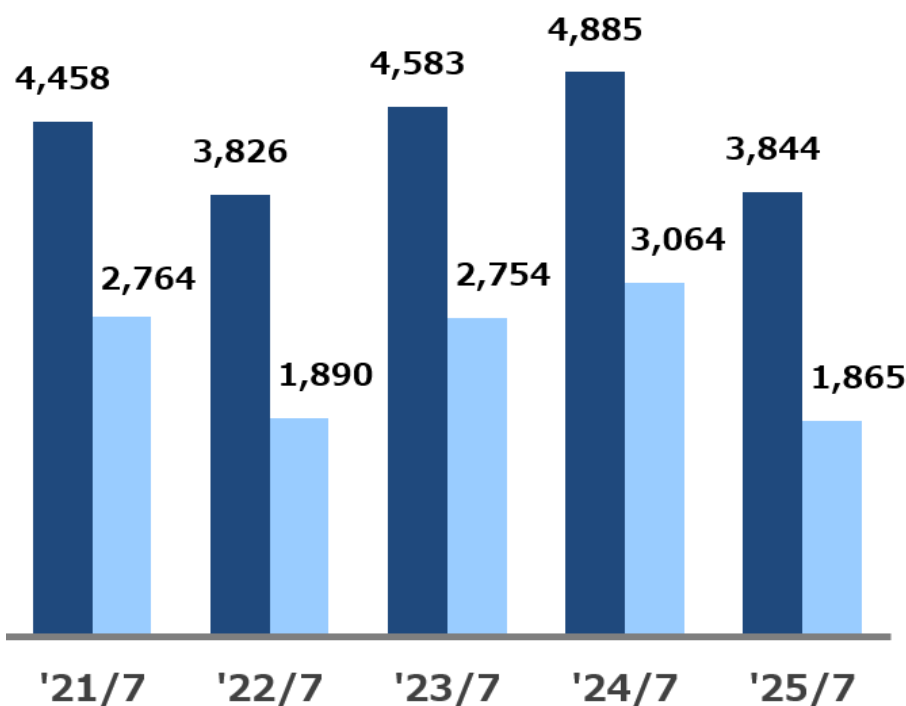
(単位：百万円)



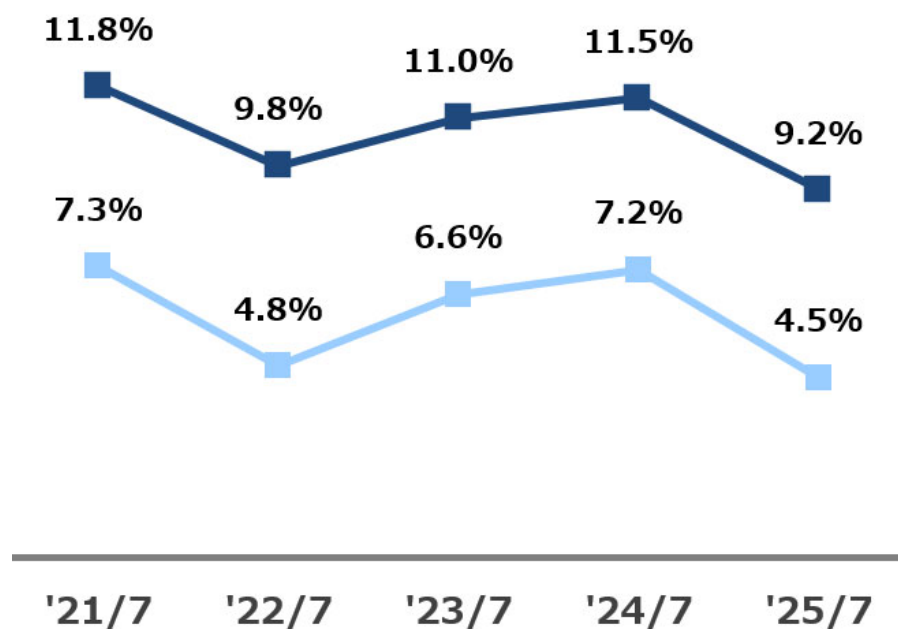
連結営業利益・償却前営業利益

- ・ 営業利益は1,865百万円（▲39.1%）
- ・ 償却前営業利益は 3,844百万円（▲21.3%）

■ 償却前営業利益 (単位：百万円)
■ 営業利益

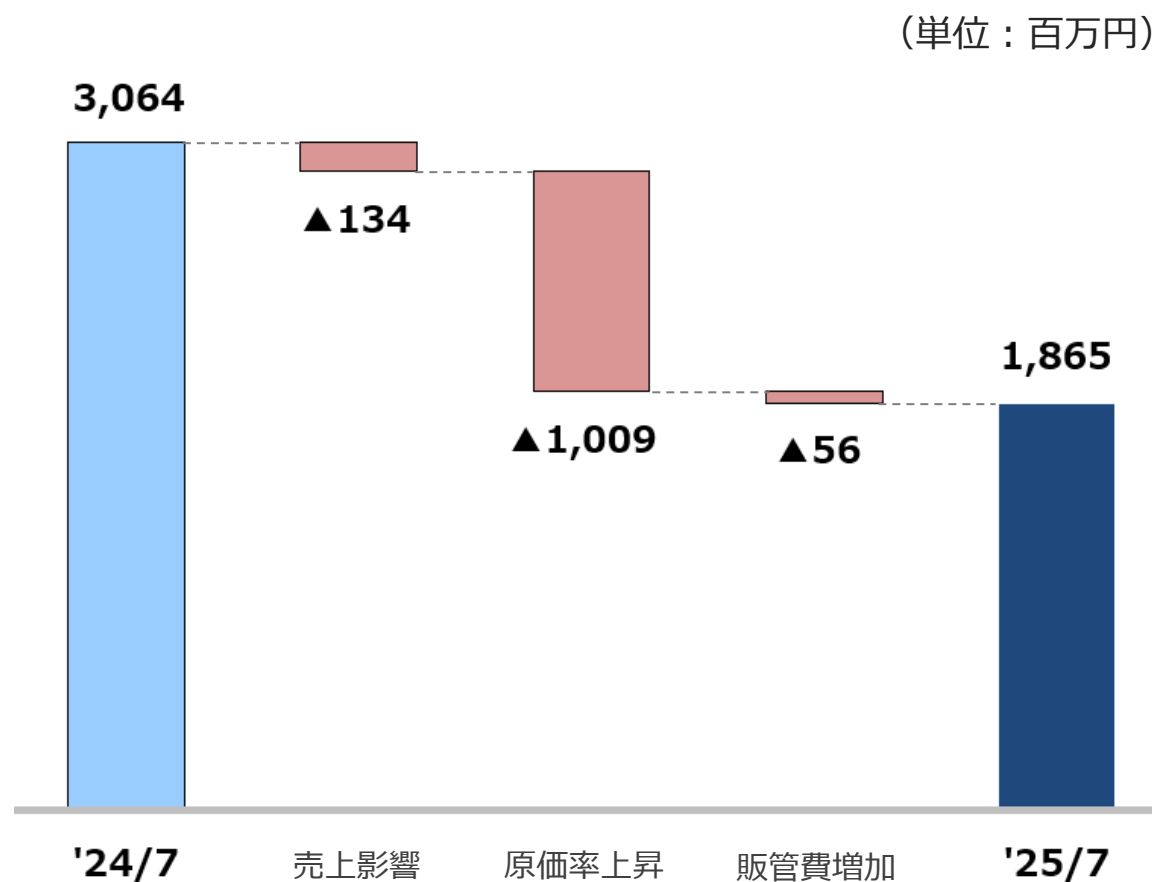


■ 売上高償却前営業利益率 (単位：%)
■ 売上高営業利益率



連結営業利益 前期比増減要因

- ・仕入単価の上昇、減価償却費・エネルギーコスト・労務費等の増加、生産高低下に伴い、原価率が上昇し、主な減益要因となった

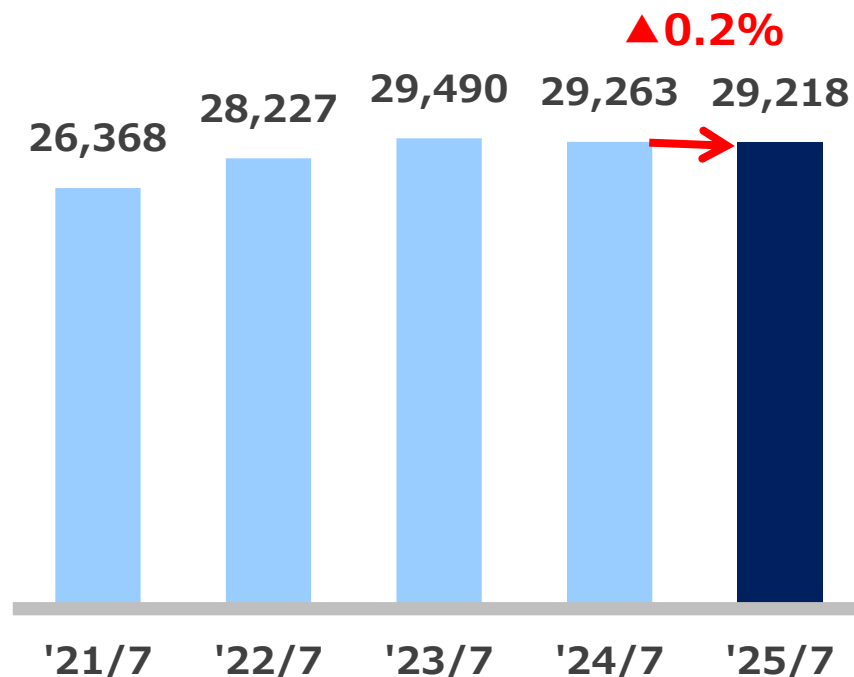


鋼製物置セグメント

- ・ 物価上昇の継続による個人消費の伸び悩みの影響を受け、需要は弱含みで推移
- ・ セグメント売上高は 29,218百万円（ ▲0.2%）
- ・ セグメント利益は 2,468百万円（▲34.3%）

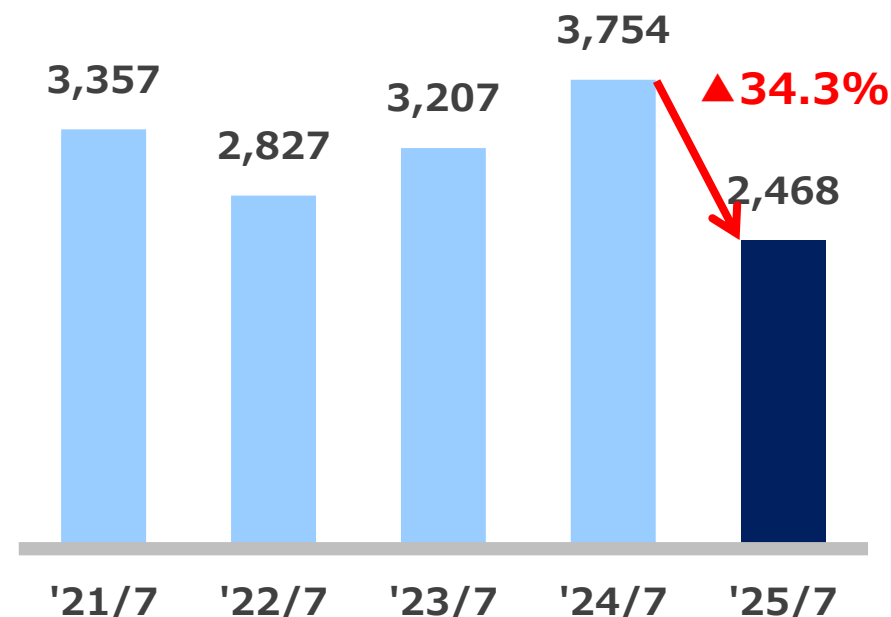
セグメント売上高

（単位：百万円）



セグメント利益

（単位：百万円）



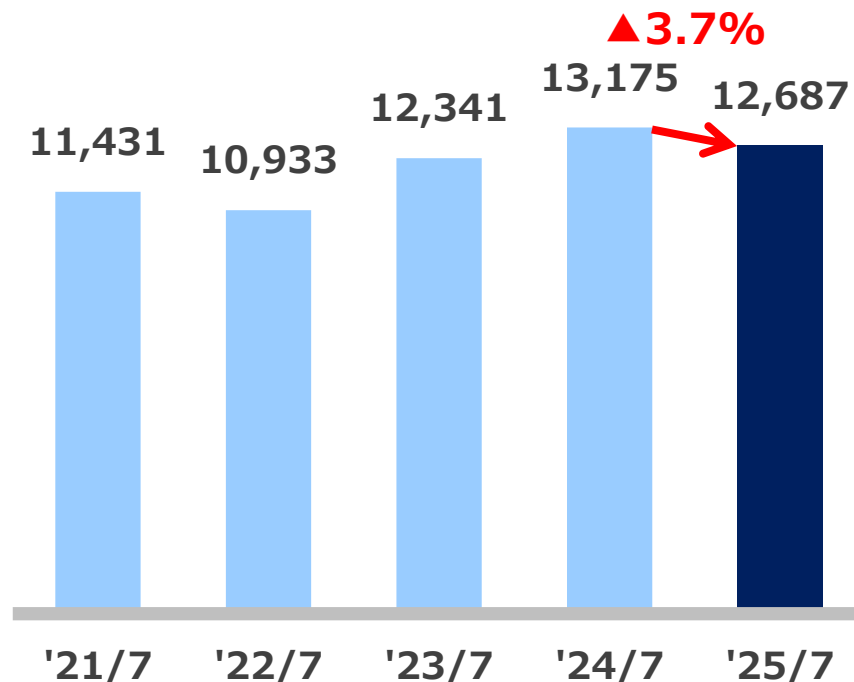
※売上高には、セグメント間の内部売上が含まれているため、業績サマリー（3ページ）の数値と必ずしも一致しません

オフィス家具セグメント

- ・ オフィス環境の見直し需要は好調に推移したが、価格競争の影響を受け、案件獲得は停滞
- ・ セグメント売上高は 12,687百万円 (▲3.7%)
- ・ セグメント利益は 318百万円 (▲12.5%)

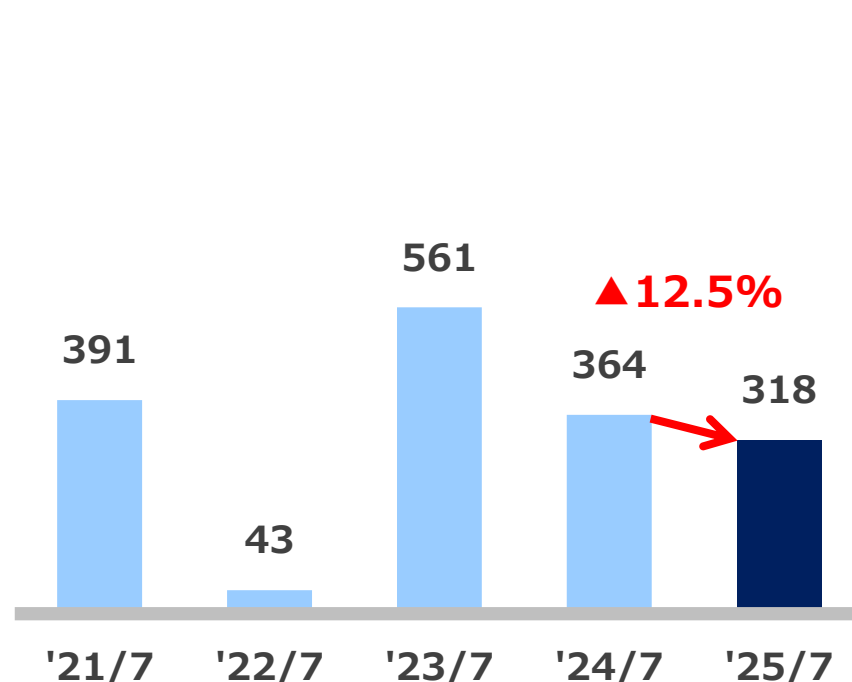
セグメント売上高

(単位：百万円)



セグメント利益

(単位：百万円)



※セグメント売上高には、セグメント間の内部売上が含まれているため、3～4ページの数値と必ずしも一致しません

2026年 7 月期は増収増益の予想

- ・鋼製物置事業では、物価上昇の継続に伴い個人消費が振るわず、耐久消費財である鋼製物置の需要は弱含み推移を見込むが、建築対応製品の顧客認知度を着実に市場浸透させることを目指す
- ・オフィス家具事業では、コミュニケーションの活性化や人材確保のため、オフィスの移転・改装需要は引き続き好調推移を見込む
- ・諸資材・部品の価格高騰やエネルギーコスト等の増加が見込まれるが、引き続き生産・物流コスト削減に努める

(単位:百万円)	2025/07期		2026/07期		
	実績	対売上比	予想	対売上比	前年比
売上高	41,905	100.0%	42,850	100.0%	+2.3%
鋼製物置	29,218	69.7%	29,790	69.5%	+2.0%
オフィス家具	12,687	30.3%	13,060	30.5%	+2.9%
営業利益	1,865	4.5%	2,460	5.7%	+31.9%
経常利益	2,197	5.2%	2,800	6.5%	+27.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,546	3.7%	1,870	4.4%	+20.9%

2025年7月期の業績について

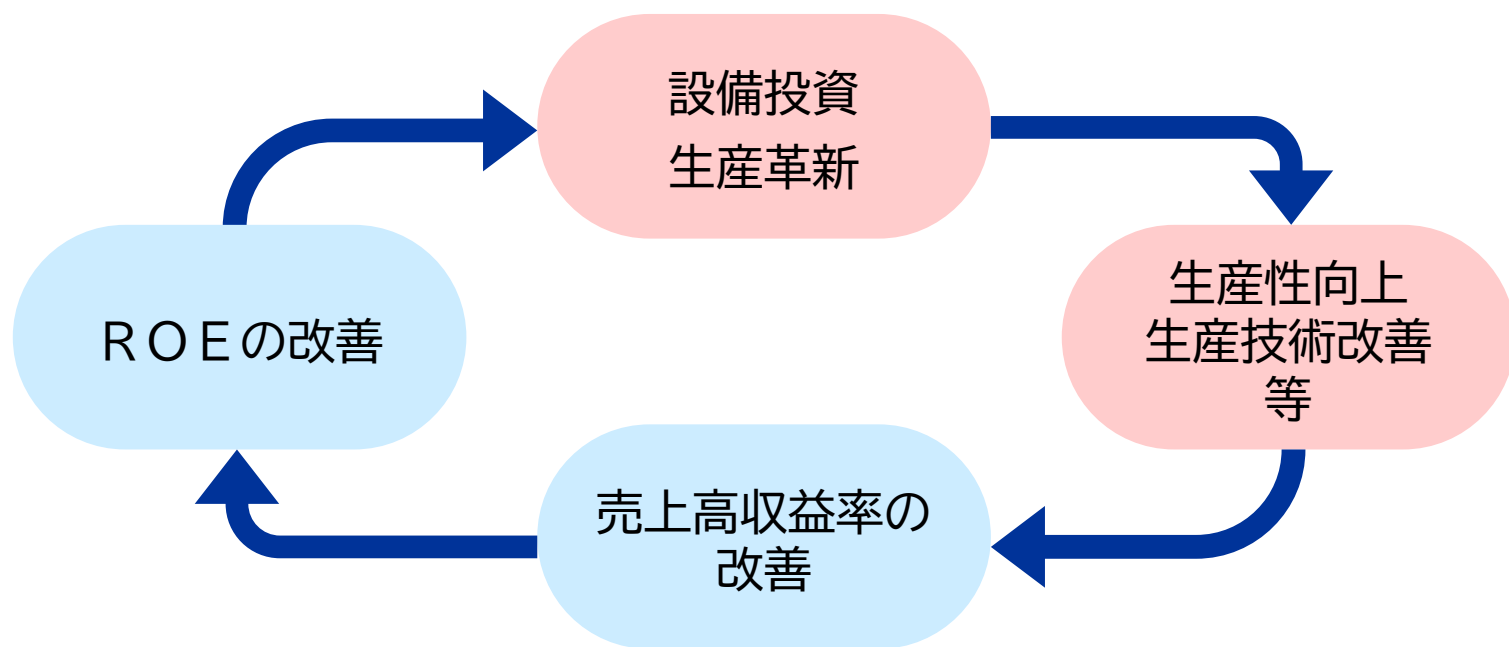
持続的成長・企業価値向上への取組について
～資本収益性改善に向けて～

製品・事例のご紹介

【ご参考】会社概要

基本的な考え方

- ・当社は、持続的成長・企業価値向上には、設備投資・生産革新が重要であるとの認識のもと、設備投資により、生産性の改善・生産技術の改善を図ることで、売上高収益率の改善に結びつけ、これにより資本収益性・ROEの維持・向上を図り、これを次の設備投資・生産革新に結び付けていく好循環サイクルを目指しております。



当面の取組 ～犬山・富岡・柏の3工場最適生産体制構築 第二弾～

12

オフィス家具の生産移管の仕上げ

- ・ オフィス家具の生産を、犬山工場から主要マーケットである首都圏に近い柏工場に生産移管

⇒ 2026年1月完了予定

富岡工場の生産設備増強

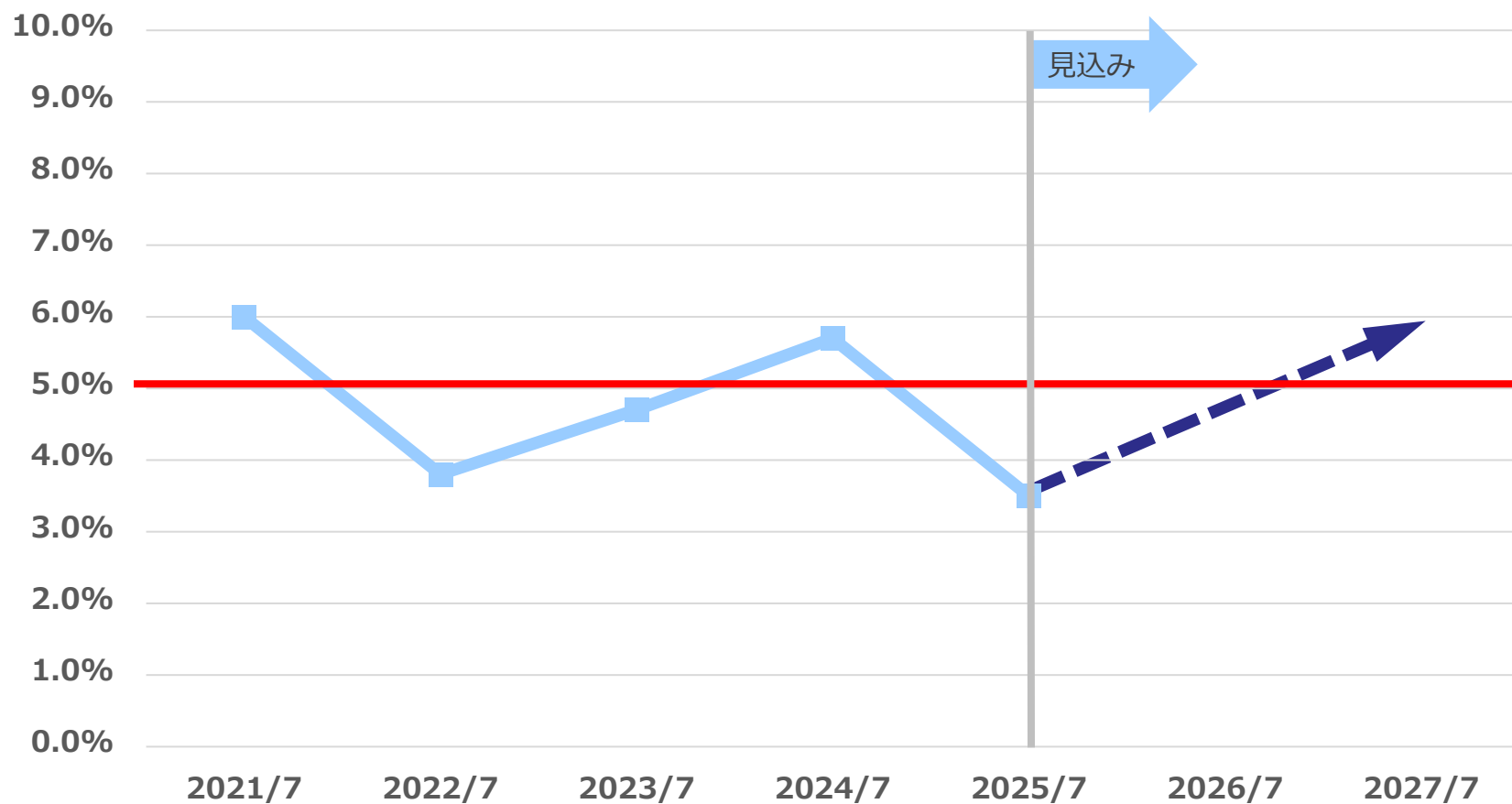
- ・ 柏工場の一般物置生産を移管するため、富岡工場の一般物置生産設備を増強

⇒ 2026年7月期中の完成、生産開始予定

これらを基盤として、**更なる積極的な生産改善投資**により、収益力の向上および物流負荷軽減をめざします

生産革新等により、ROE5%以上の資本収益性確保を目指します

ROE推移



【株主様への還元等】 自己株式取得を実施しました

自己株式取得

- ・株 数 : 275,000株
(発行済株式総数〔自己株式を除く〕の1.6%)
- ・金 額 : 499,995,200円
- ・取得期間 : 2025年6月16日～2025年7月23日

【株主様への還元等】 2026年7月期は配当金を増額します

2025年7月期 期末配当

安定的かつ継続的な配当に努める配当政策のもと、
減益決算ではありますが、
期末配当21円 年間42円の配当
(前述の自己株式取得とあわせ、総還元性向94.9%)(単体)

2026年7月期 配当予想

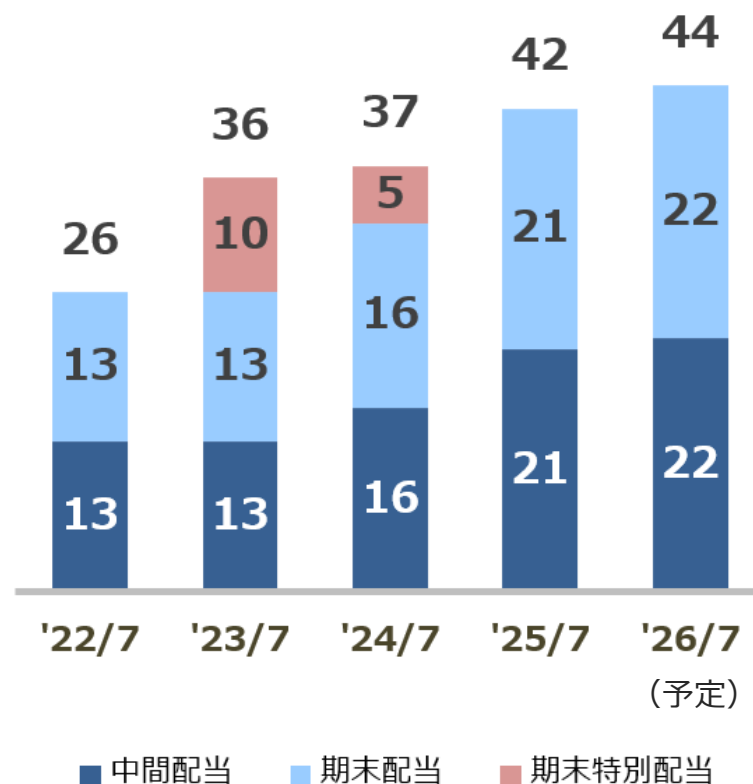
中間配当22円+期末配当22円
年間44円の配当

とすることを決定しました。

持続的な利益成長と企業価値向上につながる
設備投資を優先的に行うことが、
株主共通の利益に資すると考えておりますが、
配当、設備投資、内部留保、業績等を勘案し、
弾力的に決定してまいります。

配当金額の推移

(単位：円)



2025年7月期の業績について

持続的成長・企業価値向上への取組について
～資本収益性改善に向けて～

製品・事例のご紹介

【ご参考】会社概要

建築対応製品「FORTA」が支持されています

17

フォルタ
FORTA

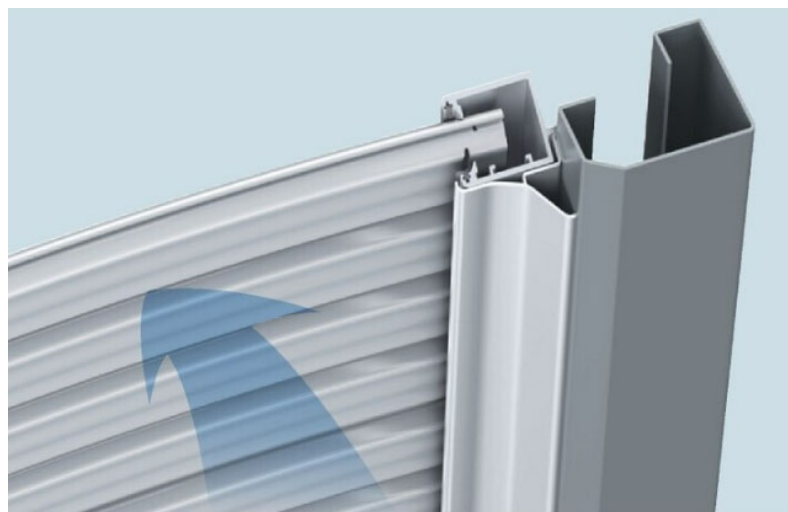
- ・ 指定建築材料を使用した頑丈な物置
- ・ 製品説明会や物置勉強会の開催などにより、顧客認知度の向上に取り組む



ガレージ「GARADIA」に高耐風圧仕様を追加

GARADIA ガレーディア

- ・ 2025年 1 月発売
- ・ 近年大型化する台風や強風に備えるため、風に対する強度をアップ
- ・ 「ガレーディア」全機種で選択可能に



基準風速 $V_0=38\text{m/s}$ （地表面粗度区分Ⅲ）に
相当する耐風圧性能

「収納」から「空間作り」へ。「コモ・スペース」発売

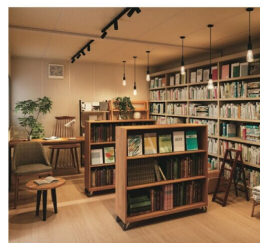
19

como space
コモ・スペース

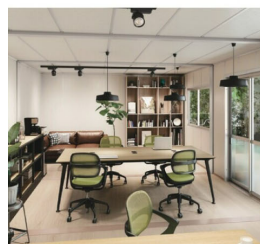
・店舗や事務所など多目的に利用できるマルチスペース製品



shop scene



office scene



public scene



「イナバ倉庫」の用途活用事例①

- ・ 小型スーパーの建屋に採用
- ・ イナバ倉庫 SGN-386GPB 6.5連棟
- ・ 既存製品を多様な用途に活用することにより、新たなお客さまの開拓を図ってまいります



「イナバ倉庫」の用途活用事例②

- ・千葉県内にリニューアルオープンした美容室の建屋に採用
- ・躯体はイナバ倉庫SGN-386GPN-4連棟



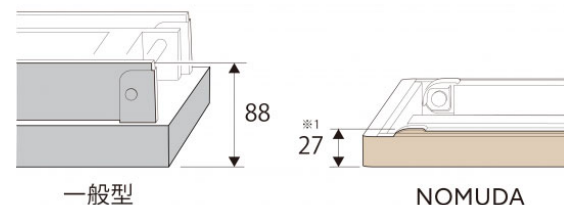
折りたたみテーブル「NOMUDA」 発売

NOMUDA

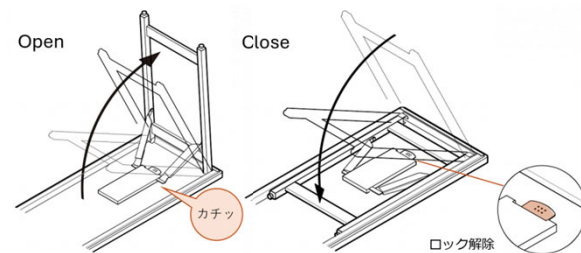
高機能、高付加価値の新製品の発売により、
新市場の開拓を目指してまいります



- 保管や輸送時のスペースの無駄を削減



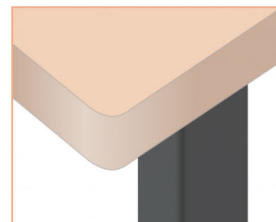
- 使いやすさを追求した折りたたみ機構



- 2つの安全配慮設計



スローホールド機構
(指はさみ軽減)



天板角R仕上げ

2025年7月期の業績について

持続的成長・企業価値向上への取組について
～資本収益性改善に向けて～

製品・事例のご紹介

【ご参考】 会社概要

会社概要

社 名	株式会社稲葉製作所（英文名：INABA SEISAKUSHO Co., Ltd.）		
代表者	代表取締役社長 稲葉 裕次郎		
本 社	〒146-8543 東京都大田区矢口2丁目5番25号		
創業・設立	【創業】1940年4月【設立】1950年11月		
資本金	11億3,204万8,500円（2025年7月31日現在）		
事業年度	毎年8月1日から翌年7月31日まで		
上 場	東京証券取引所 スタンダード市場（証券コード：3421）		
従業員数	【単体】854名【連結】1,073名（2025年7月31日現在）		
事業内容	オフィス家具・物置の製造、販売		
事業拠点	工場：3 営業所：9 配送センター：22		
連結子会社	イナバインターナショナル株式会社 イナバクリエイト株式会社 株式会社共進	当社ウェブサイト 	インスタグラム 
U R L	https://www.inaba-ss.co.jp/		

創業以来「モノづくり」にこだわり続けて成長

1940年

創業者稲葉庄市が
プレス加工業を創業



1950年

株式会社稲葉製作所
設立

1961年

オフィス家具
生産開始



1968年

犬山工場（愛知県）
開設

1975年

イナバ物置
生産開始



1987年

「100人乗っても大丈夫！」
CMスタート



1988年

柏工場（千葉県）
開設

2000年

東京証券取引所上場



2013年

イナバ富岡メガソーラー
発電開始



2016年

富岡工場（群馬県）
開設

2025年

イナバ物置
発売50周年

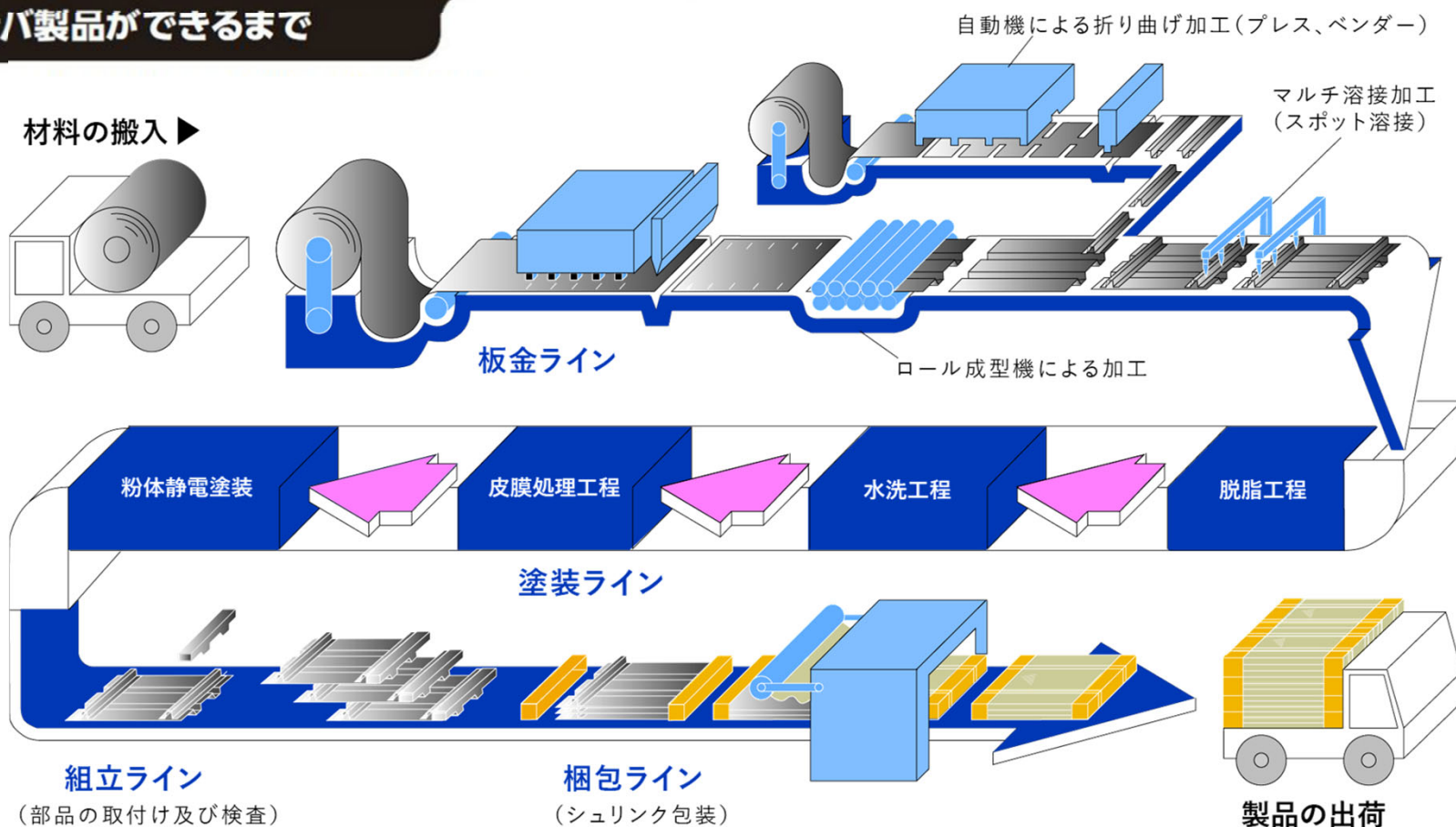


材料切断～梱包まで一貫生産。高品質と低コストを両立

**高い自社生産比率が、
ハイコストパフォーマンスを具現化します。**

イナバの製造に関する内製比率は極めて高く、90%強となっています。メーカーから直接搬入されるコイル、アルミ素材など原料の加工から最終検品まで、すべて自社で一貫して製品化する体制がとられています。また、加工専用機械や金型製作、ライン編成、塗装設備等も自社で設計、製作。徹底的に合理化が図られていますので、コストの削減に寄与した、高品質な製品を提供することができます。

イナバ製品ができるまで



イナバ物置 ラインアップ

イナバ物置

■ 小型物置

ドア型収納庫



アイビーストッカー
BJX Type

タイヤ収納庫



タイヤストッカー
BJX-T Type

収納庫



シンプリー
MJX / MJX-F Type

二重構造収納庫



ナイスーシスター
KMW Type

■ 一般物置

断熱構造物置



ナイスー
SMK Type

断熱材付物置



FORTA+
FP Type

中型物置



FORTA
FS Type

屋根傾斜変更物置



FORTA
FK Type

縦長大型物置



FORTA 縦長大型
FT Type

大型物置



FORTA 大型
FB Type

開放スペース併設物置



FORTAwith
FW Type

シャッター物置



ドローール
FF Type

■ パブリック（公共）スペース向け

連続型物置



FORTA 連続型
FD / FL Type

ゴミ保管庫



ダストボックス
FS / FF Type

ゴミ保管庫



dustbox mini
DBN / DCN Type

自転車置場



イナバ自転車置場
BP / BT / BYX / BM / BFX Type

イナバ倉庫・ガレージ・マルチスペース

イナバ倉庫

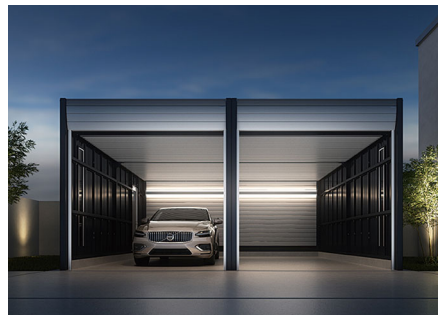


イナバ倉庫

ガレージ



タフ レージ
TAFRAGE



ARCIA
アルシア



ガレーディア
GARADIA

マルチスペース



como space
コモ・スペース

バイクガレージ



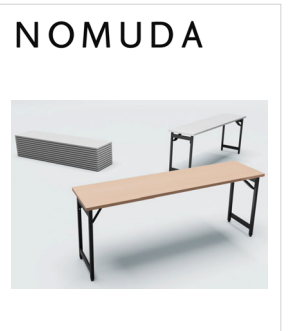
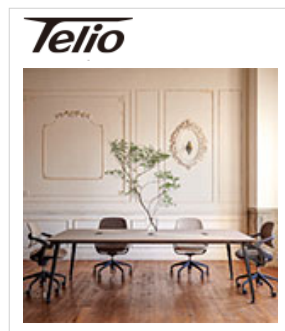
バイク保管庫



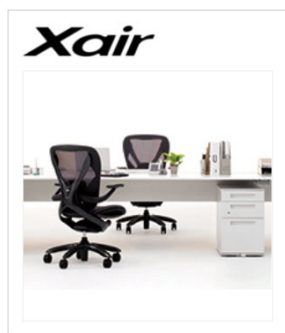
ARCIA FIT
アルシアフィット

Inaba Office System ラインアップ

■ デスク



■ チェア



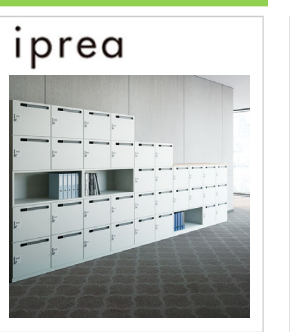
■ ブース



■ パーティション



■ ユニット収納



■ 防災備蓄



厳しい独自の品質管理

社内での独自試験

- ・ 厳しい基準の独自試験を社内で実施
- ・ 試験機器なども自社で制作
- ・ 自社で試験場を保有し、
様々な気象条件下で耐久性をテスト

品質向上委員会

- ・ 各部門から役員も参加し毎月開催
- ・ 製品の開梱から組立まで行い、
組立のプロセスや完成品の品質を検証



棚板荷重試験



雨水試験

信頼を深める「イナバフアン」づくり

代理店様・販売店様との相互理解を
深めるためのイベントを毎年開催。
強固な販売ネットワークを構築。

代理店会

- ・代理店様とのコミュニケーション
- ・毎年この機会にCMを撮影

物置勉強会

- ・販売員様を対象とした研修
- ・累計参加人数は延べ9万人超

物置組立競技会

- ・組立職人様の技能向上
- ・より良い製品開発へのフィードバック

施工セミナー

- ・各地で小規模に多数回開催



組立競技会の特集動画を公開中！

・YouTube公式チャンネル



・Instagram公式アカウント



将来に関する記述等について

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははいまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2025年9月30日現在において利用可能な情報に基づいて、当社により2025年9月30日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。